4つの視点から考える

# 幸せのためのヒント

File 27

〈福祉〉とは、幸せ、豊かさ。それを実現するヒントを教えてくれる人・物・事を、次の4つのキーワードに沿って紹介します。

# コミュニケーション ▶▶▶ 心理的な壁をなくす、やさしさを育む
# 暮らす ▶▶▶ 安心できる居場所や暮らしをつくる
# はたらく ▶▶▶ 自分らしく活動する、成長する
# 食と健康 ▶▶▶ 食を大切にして“健やか”に生きる

#コミュニケーション

## なんでも言葉で描写する ある夫婦のコミュニケーション

取材・文 小笠原（おがさわら） 綾子（りょうこ）
ライター・編集者としてインタビュー記事作成や印刷物の制作に携わる。散歩や旅行が好きで、旅先では蚤の市やリサイクルショップなどに行き、人やモノとの一期一会を大切にしている。

「いちごとクリームが6時」

カフェで、ある夫婦と話していたときのこと。夫が全盲の妻に、そう伝えていました。妻の前には、お皿に盛り付けられたケーキが。その声かけは、「いちごとクリームが手前側にある」を意味するもの。時計に見立てて位置を伝えるクロックポジションという手法です。

二人にとって当たり前のこのやりとりを新鮮に感じ、日頃どのようなコミュニケーションをしているのか知りたくなりました。

### 耳で感じた第一印象

話を聞かせてもらうために再会したのは、二人が暮らす街。「ご都合のよい場所で」と伝えたところ選んでくれたのは、商店街にあるカラオケボックスでした。熟慮の末、「話に集中できるし、撮影もできるから」そこに決めたのだそう。

受付けを済ませ、地下にある部屋に階段で移動するとき、妻が夫の左肩に右手を軽く乗せていました。

「いま、僕の肩がガクンと下がりました。これが自然にめぐみさんの手に伝わって、どのくらいの段差の階段を降りるのか、察することができるんです」

美月（みづき）めぐみさんと鈴木橙輔（すずきだいすけ）さん。滑舌がよく、一緒にいる人を楽しませてくれる夫婦です。それもそのはず、めぐみさんは舞台の役者でナレーションや朗読などもこなし、橙輔さんは劇団を主宰し、役者やナレーターとしてだけでなく、視覚障害者向け音声ガイドを制作するなど幅広く活動しています。

話すたびにほおの筋肉がキュッと上がる、表情豊かなめぐみさん。橙輔さんは、鼻から響くようなふくよかな声で、抑揚をつけながら話します。

そんな二人をつなげたのは、めぐみさんが副代表を務める、バリアフリー映画鑑賞推進団体シティ・ライツの活動。音声ガイドというツールを使って、目の不自由な人も映画を楽しむことのできる環境づくりをする団体です。

「そこに声優ボランティアとして入ってきたのが橙輔で。出来上がった音声ガイドを聞いて『おっ、この役の人（橙輔さん）、本格的。うまいじゃない』と思ったのが、最初の印象なんですけど」

と、めぐみさん。橙輔さんはというと、

「セリフやナレーションを読んでいる人のなかに、目が見えない人が何人かい

お話を伺った夫婦、美月めぐみさんと鈴木橙輔さん。外出時、全盲のめぐみさんは橙輔さんの腕に触れ、微妙に押したり引いたりしながら、ちょうどよい速度を知らせている。